

氏名	杓 永 俊 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3528 号
学位授与の日付	平成12年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Expression of Connective Tissue Growth Factor in Cartilaginous Tumors (軟骨性腫瘍におけるCTGF(結合組織成長因子)の発現)
論文審査委員	教授 二宮 善文 教授 赤木 忠厚 教授 清野 佳紀

学位論文内容の要旨

CTGF は内軟骨性骨化の過程で肥大軟骨細胞から産生され、軟骨細胞の増殖と分化を肥大化まで促進する。本研究は、軟骨性腫瘍の悪性度において CTGF の発現が何らかの関連をもつものと考え、軟骨肉腫および内軟骨腫における CTGF の発現を検討した。軟骨肉腫 18 例および内軟骨腫 16 例において免疫組織学的検討を行った。CTGF は腫瘍細胞の細胞質および核において陽性であった。軟骨肉腫の悪性度の grade が上がると軟骨細胞の染色陽性率は低くなり、CTGF 陽性細胞率と組織学的な grade は負の相関を示した。Grade I 軟骨肉腫は内軟骨腫に比べ、CTGF の発現が高い傾向にあった。これは軟骨肉腫の grade が上がるに従って、未分化で未成熟なままの細胞が増殖し、小窩を伴った軟骨細胞の形態を保った腫瘍細胞は減少し、spindle cell の割合が増加するためと考えられた。CTGF の免疫組織学的染色は、軟骨性腫瘍の組織学的悪性度の評価に有用な手がかりになると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は軟骨腫瘍の悪性度において結合組織成長因子(CTGF)の発現がなんらかに関連があるかも知れないという考えから、軟骨肉腫および内軟骨腫におけるCTGFの発現を検討した。その結果、軟骨肉腫の悪性度とともに、CTGF陽性率は減少した。このことから、軟骨性腫瘍の悪性度の評価に有用な手がかりになると考えられ、価値ある業績であると認める。

従って、本研究を行なった申請者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。